

定時制高等学校の役割と可能性 ～哲学プラクティスの視点から～

「居場所」を失ってしまっている子どもたちが大勢いる。
「居場所」とはどのような場所のことを指すのか。それはその人がその人の存在を何も否定されない、ということに加えて、その人に特別な役割がある、ということだろう。定時制高等学校も、一般社団法人などの組織も、コミュニティを創成し、「対話」を始めているのかもしれない。当事者のための「居場所」だけではなくコミュニティとしての「居場所」はどういうものなのか？

2021年8月14日（土） 14:00～17:00

13:30より入室可能

会場: Zoom 参加費: 無料

要登録（問い合わせ先にメールをください）



プログラム

第一部：定時制高等学校での取り組み 司会：梶谷真司（東京大学）

趣旨説明（5分ほど前） 稲原美苗（神戸大学）

14:00～14:30 西山正三（宮崎県立宮崎東高等学校）

「生徒の居場所を見つけるために総合的な探究の時間を利用する」

14:30～15:00 寺澤佐世（三重県立名張高等学校）

「安心できる場所であるために～小さな夜間定時制高校の教室から～」

15:00～15:20 全体対話

15:20～15:30 休憩

第2部：対話と居場所の関係性 司会：中川雅道（神戸大学附属中等教育学校）

15:30～16:00 山方元（愛知県立豊川工科高等学校）

「対話と居場所の倫理」（仮題）

16:00～16:30 赤井郁夫（一般社団法人officeひと房の葡萄）

「不登校と居場所 ～居場所をなくすとき～ なぜ、子どもの社会的居場所がもとめられるか」

16:30～17:00 全体対話 司会：村瀬智之（国立東京工業専門学校）

※講演者4名はすべての全体対話（第1部・第2部共に）にシンポジストとして登壇します。

主催：日本学術振興会科学研究費基盤B 19H01185「哲学プラクティスと当事者研究の融合：マイノリティ当事者のための対話と支援考察」（代表：稲原美苗）
共催：神戸大学大学院人間発達環境学研究科「ヒューマン・コミュニティ創成研究センター」
共催：東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属「共生のための国際哲学研究センター」（UTCP）
協力：カフェフィロ
問い合わせ先； philosophy_cafe@koala.kobe-u.ac.jp （稲原）